

平成30年度 第3回公立大学法人公立鳥取環境大学経営審議会 議事要旨

- 日 時 平成31年2月4日(月) 10:00~12:00
- 場 所 公立鳥取環境大学 小会議室(本部講義棟3階)
- 出席者 江崎信芳委員、西山信一委員、今井正和委員、大田斉之委員、
若原道昭委員、林昭男委員、藤縄匡伸委員、山田修平委員、米田裕子委員
[9名/10名]
北野彬子監事、小谷昇監事 [2名/2名]
- 欠席者 山田憲典委員

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

2 協議事項

(1) 平成31年度当初予算編成について

事務局から平成31年度当初予算編成についての説明があり、意見等を検討しながら今後進めていくことになった。

<主な意見等>

- ・私学の場合だと学生だけでなく、職員、教員のポートフォリオをやっていると加点される。導入するのなら、そのあたりもしてはどうか。
→ 検討する。
- ・同窓会は大事な組織になる。卒業生だけに任せていても難しい。大学内に事務局を設けないといけないと思う。
→ それを課題に、副学長と事務局長と同窓会と学生とで協議会をつくっている。卒業生が社会でどうなっているかは大学にとって大事なことで、卒業生が活躍するというのは大学のレピュテーションに繋がる。そういうことを把握しようとしたときに、むしろ同窓会の方がよく知っているということがある。同窓会について、大学は我がこととしてするのだが、今なら話し合って運営の棲み分けをすることが出来るかもしれないと考えている。
- ・産官学連携コーディネーターは具体的にどういうことをしているのか。県内企業、県外企業のどちらに重きを置いているのか。
→ 本年度から配置したが、以前は大学としての窓口がはっきりしていなかった。今は県内を中心に、セミナー、説明会に参加して連携を図っている。
- ・中西部の企業の環境大学の認知度が低い。意識的に中西部の企業とのマッチングをした方がいい。同窓会員が県内に多いとのことだが、コーディネーターが同窓生のところを訪ねる等すれば、マッチングが行い易いのではないか。

3 審議事項

(1) 平成31年度に向けた組織体制の整備等に伴う関係規程の整備について

事務局から、平成31年度に向けた組織体制の整備等に伴う関係規程の整備について説明があり、原案のとおり承認された。

<主な意見等>

- ・環境大学の認証評価はどこで受けられるのか。
→ 前は基準協会で受け、今回も基準協会を考えている。
- ・学修評価の可視化と公開が認証評価の大きなポイントになる。
- ・大学が本来持っている教育をないがしろにしてはならない。しかし、一方で実際に地域に活躍する学生を育ててほしいとある。新しい組織で総合的に進めて行かなければならない。

(2) 平成30年度中に調達する平成31年度予算に係る主な契約案件及び平成31年以降の予算に係る主な複数年契約案件

事務局から、平成30年度中に調達する平成31年度予算に係る主な契約案件及び平成31年以降の予算に係る主な複数年契約案件について説明があり、原案のとおり承認された。

4 報告事項

(1) 平成33(2021)年度公立鳥取環境大学入学者選抜について(案)

今井副学長から、平成33(2021)年度公立鳥取環境大学入学者選抜についての案の報告があった。

<主な意見等>

- ・一般選抜のA方式とB方式の違いは何か。
→ 共通テストで課す科目の違いである。

(2) 平成30年度公立大学法人公立鳥取環境大学監事監査計画

北野監事から、平成30年度公立大学法人公立鳥取環境大学監事監査計画について報告があった。

<主な意見等>

- ・監査項目の教育・研究については、どのような監査になるか。
→ 臨時何らかの問題が起こったときに、システムや問題そのものを監査することが想定される。あと、経営審議会の話の伺うところも監査の内容に含まれる。

(3) 近況報告

事務局から、入試、就職活動など大学の近況について報告があった。

5 閉会